

2017 年度

訪中団 感想文集

平湖、杭州 5 日間

日中経済交流研究会

平湖・杭州 訪中団 スケジュール

日付		予定	移動手段	宿泊先
11月8日（水）	11:00	関西空港集合 4階 Bカウンター前	各自	サンレイクホテル
	13:15	関空発	NH951	
	15:10	杭州着		
	19:00	平湖着	専用バス	
11月9日（木）		視察	専用バス	サンレイクホテル
		①C. S. P様（コイルセンター）		
		②H. Y様（プレス会社）		
		③嘉興学院（平湖キャンパス）		
11月10日（金）		視察	専用バス	サンレイクホテル
		①エフエスカンパニー（商社）		
		②カンタツ様 （カメラレンズメーカー）		
		③S. S. K様（食品会社）		
11月11日（土）		視察	専用バス	杭州中山国際大飯店
		①日本電産シンボ様 （モーター減速機メーカー）		
	14:00	平湖発		
	17:00	杭州着		
11月12日（日）	9:00	ホテル出発	専用バス	
		杭州観光		
	16:10	杭州発（解団式）	NH952	
	19:25	関西空港着		

目次

平湖・杭州訪中団 スケジュール 1

税理士法人ガルベラ・パートナーズ	相原進矢	2
赤木法律事務所	赤木真也	4
アベル(株)	居相浩介	6
(有)ガウディホーム	上田宣伸	7
大山印刷(株)	大山武久	8
三恵ハイプレシジョン(株)	落合良寛	9
三和防錆工業(株)	熊谷蘭子	10
勝井鋼業(株)	小島広臣	11
(株)カナツ加工	金津智俊	12
坂元鋼材(株)	坂元正三	13
坂本造機(株)	坂本進	14
(株)エフエスカンパニー	谷本優	15
弁護士法人法円坂法律事務所	中島宏治	16
カワモト・マニファクチュアリング(株)	中野幹生	17
(株)電研社	野村明宏	19
Pink Rose ピンクローズ	広瀬みゆき	20
福島総合特許事務所	福島芳隆	22
細田工業(株)	細田新介	23
細田工業(株)	細田麗	24
税理士法人ガルベラ・パートナーズ	山本泰志	25

2 回目の訪中団（平湖、杭州）に参加して

税理士法人ガルベラ・パートナーズ 相原進矢

昨年の訪中団に続き、今回も相変わらずハードな日程でしたが、非常に有意義な時間を過ごせたと思っています。前回も今回も思った訪中団のいいところは、会員間の距離が短くなるという事です。通常の支部例会に比べると 5 日間もずっと一緒に行動をするので普段の例会では時間の制約上、話ができない方とも話をさせていただける機会が多く、自分の知らない知識が今回も沢山身に付きました。

今回の訪中団、初日は移動日で 2 日目の午前は C S P というコイルセンターの会社に訪問し、午後は嘉興学院の学生（応用日本語学部）との日本語交流でした。

C S P 様は昨年の西安の会社と同じく、社員を大切にするという姿勢が同じでした。特に印象に残ったのは、総経理に「昨今の神戸製鋼の不正、東芝の信用失墜に対してどう思っておられますか」という質問をしたところ、「何も変わっていない、今まで通り日本企業を信頼している」という回答が出たことに驚きました。

C S P 様は日系の会社なので、もともと日本企業に対して思い入れが強いのは当然かもしれませんが、C S P の総経理は中国人です。総経理自らがこの言葉を述べられたことに日本ブランドの魅力を改めて感じました。

嘉興学院の先生も学生も非常に良い方ばかりでしたが、個人的には学生の日本語レベルが昨年よりも低かったことに少し残念でした。しかし、コミュニケーションがうまくできない自分に腹立たしさを覚え、今の仕事に少しでも余裕ができれば語学の勉強をしようと思うキッカケになったのは言うまでもありません。

3 日目の午前、谷本様のエフエスカンパニー様と携帯電話のカメラレンズ製造会社である K A N T A T S U 様に訪問しました。

今回の訪中団では谷本様をはじめ、エフエスカンパニーの社員様どの方も親切丁寧にアテンドをしていただき、感謝してもしきれないと思っています。

K A N T A T S U 様では工場見学をさせていただいたのですが、セキュリティの高さにただただ圧倒されました。防護服の様な感じのものの着用を義務付けられ、誰が誰かわからない状態で全員が工場見学をしました。精密なことは全て機械が行っているという状態で、今後の A I の普及が我々人類にどんな影響を及ぼすかという事も考えながら工場見学をしていました（こんなことを考えていたのは私一人だけかもしれませんが）。

午後は、SSKフーズ様（日本本社は静岡県）の工場に訪問しました。ここでは主に中国在住の日本人向けの食料品（レトルト食品）を製造されておられますが、中国人向けの食料品（レトルト食品）も作っていることもあり、両方の試食会をさせていただいたことが非常に印象的でした。中国人向けは我々日本人の口に当然合うはずもなく、残す方が結構おられたのが特徴でした（食べた方にしかわからない、なんとも言えない味です）。

4日目は、日本電産シンポ様に訪問しました。もともと平湖には日本電産が真っ先に進出したこともあって、会社の周り一体が日本電産グループで占められていることに驚きました。

総経理をはじめ日本人の方数名が駐在されておられました。経理財務の方も日本人で、特に経理財務の話になるといつも以上に熱心に耳を傾けたのを覚えています。日本電産シンポの方々にはとても親切丁寧に質問に回答していただきました。明らかにビジネスと関係ないだろうと思う様な質問も沢山ありましたが、皆さん嫌な顔ひとつせず丁寧に教えていただいたことには非常に感謝です。

まとめとして、今回も出た「何故平湖に進出したのか？」という質問に対して「政府が誘致していたから」という回答があったことに、やはりビジネスに限らずどの世界でも、縁の大切さ、人と人とのつながりが大事、という事を改めて強く思いました。

短い人生、沢山の方と出会い、沢山の方と深い関係を持ち続けるのは至難の業ではありますが、人と人とのつながりの大切さ、これを常に持ち、そして自分の周りの方々に常に感謝して生き続ける必要がある、そんな人間の原点に還った訪中団でした。

猛速で変化する中国 ～継続的な現地視察から見えてくるもの

文責：赤木真也

去年の西安に続き、2年続けて訪中団に参加しました。西安とは地理的にも経済的にも全く異なるので一概には言えない部分も多々あることを承知で、個人的感想として、以下雑感を述べたいと思います。

1 目に見える環境改善等

現在でも、中国は大気汚染がひどい、道路状況やマナーが悪い、等の話はちらほら耳にします。

しかし、私には目に見えて酷い、というようには思わず、むしろどんどん改善されている印象です（トランプ大統領が訪中していたのと同時期だったのも関係あるか・・・？）。

例えば、大気汚染（臭いやモヤ等含む）については個人的には全く気になりませんでした。心地よい秋晴れの日にも恵まれ、過ごしやすい日々でした。西湖の透き通った水と、雲の合間に見える青空は、まさに世界の十景ならではでした。

道路では、クラクションをよく鳴らす、という点は見受けられましたが、路上にゴミは殆ど落ちておらず、粉塵が巻き上がることもなく、訪問先企業での清掃状況の徹底も含め、非常に清潔感を感じました。

これまで言われてきたような「空気が悪い」「マナーが悪い」「日本よりも遅れた国」等々の中国評は、相当ステレオタイプ化しているものが多いのでは、とも感じました。

2 技術革新のめざましさ

市内では、電動自動車や電動バスが相当数走っており、散策時には、何度も自宅等で電動自動車を充電している姿が見られました。

ガソリン車についても、訪問先企業の話によれば、数年後には現在よりもさらに強化された環境基準が適用されるとのことで、それに合わせた技術の確立も日々進んでいるようです。

噂のレンタル自転車に乗る人も目立ちました。乗る人を待つレンタル自動車が、きちんと整列されて止まっていたのは、中国がさらに新時代へ入りつつあることの象徴にも思えます。キャッシュレス化もすさまじく、大型商店に限らず、道端の喫茶店や土産物屋等での買い物では、現地の人が、当たり前のように WeChat 等での支払をしていました。語学学習を通じて知ってはいたものの、街の隅々にまでキャッシュレスが普及していることには、驚きを禁じ得ませんでした。

また、ホテルで見た現地ニュースでは、AI 技術の報道もありました。毎朝眠い目をこすって見ていましたが、車の自動運転以外にも、持ち主に自動でついてくるキャリーバッグのデモンストレーションには、眠気が一気に吹っ飛びました（階段ではどうなるのか、は個人的には興味がありますが…）。

帰国してからは、中国大手スマートフォンの Huawei（华为）が技術者を初任給 40 万円で募集し、多くの日本の技術者が興味を示しているとの報道もありました。

これらを見るに付け、中国の現在位置は、経済的に（またこれをリードする政治的にも）日本を遥かに追い越し、日本は遠く置いて行かれている、技術的にも既に追い抜かれているのではないか、と強い懸念を感じずにはいられませんでした。

3 今後の個人的課題等

農村との貧富差はあるでしょうが、工員の賃金は相変わらず上昇しているようで、通勤手段は電動バイクから自動車へ（電動かは不明）変化し、購入するマンションの価格帯も相当上昇しているようです（なお、ローンの支払等は年6%を超え、男性は結婚するには車とマンションがいる等とも言われ、色々な意味でなかなか大変なようです）。ただ、AI技術の革新も早いので、単純労働に従事する人々の立ち位置は、逆に不安になりました。生活水準の向上に伴い、自動車や不動産ローン等、消費支出も上がっているとのことで、AI技術の導入に伴い、中国国内の労働者の状況が今後どのように変化するか、更に注視していきたいと思います。

また、雄安地区、AIIIB、一带一路の話など、国ぐるみで「猛速」（あえてこの言葉を使います）で進む中国の現在については、今年度、あまり聞く機会がなかったため、次年度参加できれば、更に現地の人からお聞きしたいと思います。

「2 技術革新のめざましさ」でも述べたような懸念もあり、継続的に訪中団に参加する以外にも、絶えず中国の現状を見ておかないと、あっという間に世界の中で浦島太郎になってしまう、そんな恐怖すら覚えました。

4 最後に、ストレスなく団をまとめて誘導くださった居相委員長、ご自身の飲食時間も惜しんで非常に細やかにアテンドくださった(株)エフ・エスカンパニーの谷本様はじめ、訪中団の皆様、多忙ななか快く企業訪問を受け入れてくださった訪問先の皆様、本当にありがとうございました。この場を借りて、感謝申し上げます。

以上

今回の訪中団・団長を務めました。

今年は「中国市場を開拓している企業の訪問」をメインテーマに計画しました。

平湖(ピンフ)という聞きなれない地域かもしれませんが、当研究会に所属するエフエスカンパニーの谷本さんが事務所を出している地であり、上海や蘇州、杭州からのアクセスも2時間程度という立地の良さを生かし日本企業が数多く進出していることから、訪問の地としました。

訪問先は、中国が世界の工場から、世界の市場へと変貌を遂げていることを実感するのに相応しい企業を選びました。

(1)平湖を代表する日本企業である日本電産グループから

谷本さんの会社と取引があり、自動化、ロボット化を推進するにあたってますます需要が増えているモーターの減速機メーカー、日本電産シンポ。

(2)中国はスマホの保有台数が世界一となっていますが

中国最大手のスマホベンダーを取引先とし

カメラレンズで、大きく売り上げを伸ばしているカンタツ。

(3)JFEから一部出資を受けたローカル企業で

自動車や2輪車から出る排ガスを浄化する触媒となる特殊なステンレス鋼をスリット加工するCSP

(4)CSP のグループ会社で、プレス加工をするHY。

(5)静岡に本社があり、マヨネーズやドレッシング、カレー製造を行い

日本の味を中国で再現しているエスエスケイ。

(6)そして、機械部品商社で、今回の訪中団を全面的にサポートしてくれたエフエスカンパニー。

6社の訪問と文化交流の一環として、恒例の日本語学校への訪問。

嘉興学園では日本人1名につき、2名の学生さんという贅沢な受け入れ態勢を整えてもらい充実した意見交換を行うことができました。

その後ウィーチャットでの交流もそれぞれ行われているようです。

例年よりも訪中団の募集を早めに開始したことが奏功し最大20名と思っていた募集人数を超える23名の方から申込をしてもらいました。そのうち初参加の方が6名となりました。

この訪中を通じて、中国に興味を持った人、中国との取引に踏み出してみようと思った人は来年もぜひ参加してください。

何事もなく、全員が無事に帰国でき、ホッと一息つきたいと思います。

谷本さんありがとう。感謝してます。

2017 年訪中団のご報告

11／8（水）に関空から出発し、11／12（日）に帰国しました。

初日は、杭州の空港からバスで平湖に向かう途中、バスの車窓から景色を見ていました。

目新しい建物が沢山目に入り、4階建住宅の集落があちらこちらにあり、生活水準の向上が見て取れる様子でした。

2日目からは、平湖近辺の製造工場を見学させていただき、これも真新しい工場ばかりで、敷地も500～4000坪超と大きく、日本と遜色ない綺麗に清掃されている工場ばかりでした。

埃っぽい外気と、少し臭いの残る水道水は、10年前と同じでしたが…。

ユーロ6・給与水準・50歳定年制などを、総経理や工場長に詳しくご説明頂き、今後の参考とさせていただきます。

感想としては、今後は中国やインドなどの大国との取引なしに、日本の成長は望めないとの見解に至ります。

※ユーロ6…EUが2014年に施行した自動車の新たな排出ガス規制。EU指令に基づき、自動車から排出される二酸化炭素（CO₂）、窒素酸化物（NO_x）、粒子状物質（PM）などの有害物質の上限値を定めている。EU域内で自動車を販売するすべての自動車メーカーに適用され、基準を満たさないと域内で車を販売できない。

新大阪支部 上田宣伸

2017 年 訪中団 In 平湖 ～感想文

大山印刷(株)

代表取締役 大山 武久

訪中団が学生と交流を重ねて 4 年目。2017 年は嘉興学院と浙江省平湖師範学校の統合により 2004 年に開校した嘉興学院（平湖キャンパス）を訪問。平湖師範学校は 100 年の歴史があり、培われた文化と教育経験は浙江省内外から高い評価を受けているようだ。キャンパス面積は 1.67 km²。学生数 2500 名教職員 159 名。新しく整備された校舎、グラウンド、寮が立ち並び、申し分のない学びの環境だ。

武漢の大学で学生と昼食を共にし、樋爪さんが学生相手に講義をしたのを皮切りに、廈門では学生たちに日本語劇の歓待を受け、西安では学生とペアで学内を散策して交流を重ねてきた。今年は学生 2 名と訪中メンバー 1 名の 3 人でテーブル囲み約 1 時間のフリートーク。最初から打ち解けるテーブルもあればぎこちなく進むテーブルもあっただろう。私の相手は杭州出身の李君と徐君。二人とも 20 歳のシャイな男の子。日本のアニメに興味があり、将来日本に行ってみたいという二人だが、日本人と話した経験はほとんどないようだ。（上海で日本人にトイレの場所を聞かれた程度）。机上の勉強が中心なので流暢に会話が進まないが、家族のこと、休日の過ごし方、アニメなど、糸口を探りながらの会話になった。もっとも盛り上がったのは、お互いがスマホを見せ合いながら WeChat の交換だったのも、いまだきの出来事なのだろう。次は来年京都に行き着物を着るのが楽しみという周さんと王さんの陽気な女の子。「すし、天ぷら、しゃぶしゃぶ、スイーツ・・・」あれもこれも楽しみと目を輝かせていた。訪中二日目にも関わらず僕も日本食が恋しくなった。二人とも WeChat の交換をして着物姿の写真を送ってもらうことを約束した。帰国後、学校の HP に我々の交流がアップされていると知った。何となく嬉しい気分だ。

訪中するたびに思うのだが、スマホの存在の大きさを日本以上に感じる。WeChat Payment や AliPay といったキャッシュレス化が広がっている。街角のシェア自転車もスマホをかざすと鍵が外れ使用できる。そういったことが将来の何を意味するのかは僕の頭の中では不明瞭だが、この訪中団で目にしたことは忘れられない物になりそうだ。

今までストレスだった Line や FB がつながりました。いつ VPN 規制が強くなるかわかりませんが・・・ただ、そんなことに一喜一憂しているところを見ると、スマホに支配されているのは間違いなさそうです。

平湖・杭州視察に参加して

三恵ハイプレシジョン(株) 落合 良寛

今年の訪問先は平湖から杭州です。平湖は7年前から2度訪問し今回は3度目です。その都度、谷本さんには大変お世話になりました。杭州は観光でしたが過去3度訪問しました。訪中を重ねるたびに中国が様変わりしてゆくのを肌身で感じます。

最初の訪中はさて何年前だったか記憶があいまいですが、まだ浦東空港がなく虹橋空港時代です。通勤時間帯では人民服を着た労働者が自転車で道路を占拠しおびたしく職場に向かう光景が記憶に残っています。そして15年前、部品加工の委託先を求めて福州から上海へ当時ホテルのエレベータ内でたばこを吸う唾を吐く、道路はゴミが散乱し何処からか生ごみの腐敗臭が漂ってきます。10年前、上海駅のすぐ近く長距離バスのターミナルのトイレの便器は長い溝に水が流れ男女ともに個室には扉がありませんでした。上海のど真ん中です。

この度の訪問先、平湖、杭州では、まず自転車があまり見かけません。町は街路樹が続きごみが落ちてないのです。視察先工場の駐車場にはマイカーがずらりと並び小型車が目立ちますが、どうも新車のようです。1年前には見かけなかった乗り捨て自由のレンタル自転車が目につきます。スマホとGPSを利用した日本には無い新しいサービスですが、当初こんなシステムは中国では窃盗等々で成り立たないといわれていましたが、モラルも変わってきたのでしょうか豊かになったのでしょうか、今中国各地に広がりつつあるそうです。そして何より急速に浸透しているのがキャッシュレスでした。大型店舗やコンビニならともかく、町の商店街の小さな食堂でもスマホでQRコードを読み込んで認証されれば支払い可能です。このシステムは小売店の脱税対策に効果抜群だなあって感じます。なかなか国家はしたたかです。

中国のスピード感を目の当たりにしますが、日本では決め事に合意点を求め議論を延々と続けている最中、中国では駆け足で物事が決まり実行されてゆきます。結果人々の暮らしが豊かになったのですから中国共産党の導く国家作りは成功しているのでしょう。

視察4日目、日本電産シンボ様を訪問した際に、何方かが総経理に「コスト高の中国で今後も平湖で生産を考えているのか」この質問に対して「中国市場が目的なので撤退は無い」と仰ってました。正しいお考えと同感いたします。過去中国進出ラッシュがあり遅れながら進出した中小企業がコスト高等々で現在撤退が増えていると伺います。投資して満足に回収できず仕舞いでさらに撤退費用が発生します。はたして中国進出は正しかったのでしょうか。そのように考えてしまいます。

視察2日目、日本語学校的女子学生さんとの交流です。カタコトの日本語で取り留めのない世間話をしましたが、別れ際、学生が私と一緒に写真を撮りたいとのこと、記念写真を数枚写し、翌日私のメールにたどたどしい日本語でメッセージと写真を送ってくれました。60のオッチャンは嬉しいですね。楽しい交流会となりました。

最後に訪中委員会の皆様、居相さん谷本さんと社員の皆様、現地での調整大変だったと推測いたします。本当に有難うございました。心より感謝申し上げます。

平湖・杭州の訪問

平成 29 年 12 月 5 日

三和防錆工業(株) 熊谷蘭子

今回で 2 度目の訪中団に参加させていただきました。

第一日目

関西空港から杭州～平湖（ホテルも 3 日間最高でした）

第二日目

- ① C S P 様（コイルセンター） 倉庫の広さに驚きました
- ② H Y 様（プレス会社） 流れ作業で効率化している
- ③ 嘉興学院

学生と交流、意見交換。学校内で昼食をごちそうになりました。学生たちに校内を案内してもらい、男子学生に「おばあさん」と言われた時は^_^; やっぱり私もおばあさんや(*^_^*) お土産に持参した動物の付箋シールを大変喜んでもらい、嬉しく思いました。

第三日目

- ① エフエスカンパニー(株) 谷本さんの会社

中国の女性社員が頑張っておられるのに感動しました。どこの国でも女性が頑張っています。京セラの稲盛さんの本を読みたいと言っていたのが印象的だった。

- ② カンタツ様 （カメラレンズメーカー）

完全装備で工場見学をさせてもらい感激でした。普通では見学できないと思いますが、訪中団のおかげでよい勉強になりました。

- ③ S S K 様（食品会社）

試食させていただいたカレーはおいしかったです。

第四日目

- ① 日本電産シンボ様（モーター減速機メーカー）

減速機の種類之多さに驚きました。減速機の中のベアリングは日本からの輸入と聞きました。当社がメッキをしているものがあるかもしれません。

第五日目

杭州空港の変わりように驚き。昭和 56 年に杭州空港は古びたところでした。

今回の空港は 2001 年にできたとガイドさんから聞きました。

19 時 25 分関西空港無事帰国。

訪中団のみなさま、お疲れ様でした。

エフエスカンパニー(株)の谷本さんお世話になりました。ありがとうございます。

また、機会があれば参加させてください。

勝井鋼業株式会社

小島 広臣

今回初めて参加させていただきました。同友会入会もまだ 1 年未満の私がこの訪中団に参加しようと思った動機が大まかに 4 つあります。

1. 中国の現状を知りたい（日本でテレビ等の情報との違いや活気を肌で感じてみる）
2. 旅行や出張等では行けない場所を見学でき、また現地の方とのコミュニケーションを楽しみたい。
3. 5 日間、ともに行動する会員の皆様と深く交流でき、色々教えてもらいたい。
4. 会社を長期にあげる事が初めてで心配なのですが、社員に任せることで自信につながってくればいいかな。

1 日目。

初めての方がほとんどでしたが、気さくな方ばかりですぐに仲良くさせていただきました。

2 日目から企業訪問でした。

多くの会社で人手不足の話をされており、自動化を進めていかなければいけないと言われておりました。人件費も高騰していると言われておりますが、日本に比べればまだまだ安いと思いました。その割になぜマンション、車の値段が高いのか。どうやって払っていつているのか不思議です。整理整頓が行き届いた工場、作業効率を上げる仕組みがされており、挨拶も気持ちがいい。見習わなければならない所がたくさんありました。

今回特によかったのが、大学訪問です。日本語専攻の大学生がキャンパスを案内してくれ、一緒に学食でランチをしました。また、学生 2 人対 1 人でディスカッション。

日本人と話をしたことがない学生さんもサマーキャンプで日本に来たことのある学生さんもあり、将来日本に関連する仕事をしたいと多くの方が言うておりました。

通常の旅行では絶対味わえない貴重な経験をさせていただきました。

最終日は杭州観光でした。

西湖周辺は絵になる本当に綺麗なところでした。一昔まえの中国の印象ではごみは路上に捨てるのが当たり前でしたが、今はゴミひとつ落ちていない日本と変わらないきれいな光景でした。

訪中団に参加させてもらってびっくりしたのは、会員の皆様の手作りの旅であることです。

旅行会社におまかせではなく 1 つ 1 つ探して交渉して作られていること、また今回は訪中委員の谷本さんの社員さんが全面協力して頂いていることなど、本当にすごいです。

このような素晴らしい訪中を実現して頂いた訪中委員の皆様、また多くの学びを頂いた訪中団の皆様、本当にありがとうございました。

2017年11月平湖訪中団 について (株)カナツ加工 金津智俊

今回の”平湖“への視察は初めてでして、地名を耳にしたときどこにあるのか見当もつきませんでした。

上海と杭州の中間に位置して、新幹線も走っていますが、街並みは高層ビルがそんなに多くなく、これからどんどん発展していく感じがしました。

初日の視察研修先のC. S. P様の工場の広さには羨ましい程でした。

学生達との交流会では、女性達の日本に対しての強い興味を感じ、皆が日本に旅行するのが希望でした。また学生たちの情報源は全てスマホからの事、情報源の狭さには驚きでした。

2日目、カナツ様、SSK様全ての会社での6S活動の徹底はとても参考になりました。 昼食のラーメンはとても美味しかったです。

3日目、日本電産シンポ様、会社の目指す方向が世界的で器の大きさ平湖の街の開発にも大きな影響力を持って経営をしているようでした。昼食の焼肉は、視察研修が終了した安堵感からか食べ過ぎました。

最終日の杭州観光、西湖周辺散策、他の観光客も沢山いまして、いろいろなお菓子の試食もできました。昼食は、屋台食堂で他の観光客が食べているのを見ておいしそうなのを食べました。

団長様はじめ、各幹事様の皆様本当にありがとうございました。次回もよろしくお願いいたします。

「大人の修学旅行」 バンザイ！ —— 「2017 訪中団 in 平湖」で学んだこと

坂元鋼材株式会社 坂元正三

私は同友会の訪中団には2009年(蘇州・南京)、2010年(上海・蘇州)、2014年(深圳・香港)、2015年(アモイ)と参加し、今回が5回目でした。

かつては「安い労働力の中国で生産して日本で安く売る」「安い中国製品を輸入して日本で安く売る」というのがビジネスモデルでした。しかし中国経済の成長、賃金の高騰で人件費や物価がうなぎのぼり。こうした「安く作る」「安く買う」ビジネスモデルは成長しがたいものに。

それを直接見たのが2014年の深圳でした。軽工業(アパレルや財布・カバンなどの縫製)は、人件費の高騰で採算が取れなくなり、いまやベトナム、さらにはミャンマー、バングラデシュ、カンボジアなどに移転して行っています。「より安い賃金を求めて」。そして、そのような第3国に行くことをしなかった日本企業の「撤退ラッシュ」が続きました。

ところが、今年見た「平湖」では、現地に根ざした日本企業をたくさん見ました。「安く作る」というよりも「中国で売る」というニーズに応えていました。中国ビジネスも新たな局面にあるのだと実感しました。

また今回の旅では、ITの急速な発達で変わり行く中国社会に驚愕しました。私は学生時代に中国に2年間住みましたが(1993-94年)、もう別世界。生活が豊かになりました。ゆとりが生まれたためか、「無愛想」だった中国人も少しは礼儀正しくなった気がしました。

さて、今回の訪中団でも「大人の修学旅行」を満喫しました。中学、高校では修学旅行は一大イベント。何日も寝食を共にすることで新たな出会いがたくさん結ばれ、友情が深まりました。同友会にあっては5泊6日もの長い間ずっと行動をともにするこの訪中団が、会員同士の結びつきを強固にするものだと思います。

私自身がそうです。同友会に入った初年度(2009年)に訪中団に参加し、ベテラン経営者諸氏から「同友会の学びの真髄」そして「経営の何たるか」を手ほどきしてもらいました。同友会の大きな価値、それは身近なところに「お手本」を見つけることだと思います。そして、まねすること。この8年間、訪中団で親しくなった同友会メンバーからどれほど多くのことを教えられたか。訪中団という「媒体」がなければ、この深いお付き合いはありえませんでした。中国に行って学んだのは中国だけではありませんでした。

最後に。この訪中団は会員手作りであり、今回も現地ホストの谷本さん(エフエスカンパニー)や訪中委員の皆さんに、たいへんお世話になりました。居相委員長が帰国後にメールで書いていました。「始まってしまうと早いものであつという間の5日間でしたね。今回は団長として皆様のお世話をさせて頂きましたが、6年前に初めて訪中団に参加したとき、まさか自分が団長をさせられる、いや、させて頂けるなんて思いもしませんでした」。大勢の訪中メンバーを預かって、息つく暇もなかったことと思います。本当におつかれさまでした。そして、ありがとうございました。

日中交流研究会 訪中旅行 平湖、杭州

坂本造機(株) 坂本 進

浙江省平湖の町は上海や杭州などの大都市の近郊で全く今まで聞いたことのない町でした。ネット上の情報もなく、どんな町か分からずに来ましたが到着してからの町の印象は車の数が少なく人もあまり多くない田舎の町だなと感じました。ただ道路工事の箇所が多く急速に整備発展しつつある町で、繁華な場所も限られており大都市周辺の衛星都市的なのんびりした雰囲気の印象を持ちました。

訪問先は以下のようでした。

CSP 社、HY 社は日本製のプレス機械をメインにしてステンレス製薄板を加工し自動車のバンパーなどの部品の製造されていました。今後厳しくなる環境規制への対応などに注力することでしたが中国でもコンプライアンスが重要な経営課題であることを認識しました。

エスエフカンパニー平湖さんは日中のメンバーである谷本さんの会社で、機械工具などの販売会社でマンションの部屋を数室使った業務でした。女性4人と谷本さんで運営されて社歴は10年ほどと聞きました。男性社員はいませんが日本語も理解する仕事をバリバリこなす頼もしい女性ばかりで感心しました。カンタツ平湖社さんは携帯電話用のレンズの製造工場。

業務説明のあと工場の見学に当たってクリーンルーム用の服を着て工場を回りました。着脱に時間がかかり、こんな服装で1日中いることのしんどさが分かりクリーンな環境で微小で繊細なものを製造することが如何に大変かを実感しました。

SSK さんは業務用のレトルト食品や調味料の製造でした。試食した日本流と中華味のカレーの大きな違いを自ら味わいました。最近伸びてきたネット販売の話聞きマーケティング戦略の重要性を確認しました。

日本電産シンポさんは谷本さんの会社の重要なお客様で産業用減速機を製造されていました。総経理以下6名の方が忙しいなか対応いただきました。

有名な経営者である日本電産グループの永守会長の指導のもと厳しいが着実に業績を伸ばしている会社を見学し質疑応答をしました。

合理化した設備に5Sの行き届いた工場内に目を見張りました。しかしここでも今の中国にありがちな労働者不足があり、社員の半数が勤続1年以内だと聞き、それでも教育や指導の徹底により決めた目標をクリアしているのには驚くほかありませんでした。中国の有力メーカーに伍してシェアを上げていく計画には日系企業のベンチマークになる強力な存在感を感じました。

今回の日本語学校への訪問では嘉興学院へお邪魔しました。

日本語学校訪問は近頃恒例になっていますが、我々参加者と学生さんとの会話には楽しさと苦しさが混在します。なかなか日本語が通じないことがあり、こちらでも中国語の単語を発音しても正確でないので相手に伝わらない。何とか漢字を書いてお互いやつと理解する状態。日本人が外国語を学ぶ難しさがあるが同じ漢字文化の国でも日本語を習得することも大変なことであることを再確認しました。帰国前日の杭州では夜市に行き、子供だった頃の昔の日本に戻った感じで楽しむことができました。全般的には幹事の皆様の準備と努力、並びに見学先企業及び学校の協力により全てが支障なく遂行され参加者が満足できた訪中団でした。関係者の皆様に感謝します。

訪中団感想文

今回日中経済研究交流会訪中団に初めて参加をさせていただきました。
今回改めて思ったことは、キャッシュレス社会に劇的に変化していること。
環境や空気がよくなっていたこと。この部分は政府が環境問題に対して重要視し、
規制強化をしている成果であると考えます。
タクシーに関しても運転は荒いが、おつりをしっかり返金し、愛想もよく以前のような
日本人なら高く言ってもいいというような事は無くなっている。
高速道路の料金所の人々の態度でも現在は有難うございますの言葉があったり、丁寧に対応
しており、ここ数年でサービスに対する考え方が変わってきているのが目に見えてわかる
ようになった。
キャッシュレスに関しては間違いなく日本は遅れており、中国のような信用という事が成
り立たない社会ではどんどん進んでいく。
偽札対策・クレジットカードの盗用・紙幣の印刷等が無くなることは政府にとっても、
消費者にとってもメリットがあるので、今後硬貨はまず無くなり、紙幣はその後になくな
っていくことが予想される。

劇的に変化する中国を仕事以外の面で見える機会をいただき、改めて中国には魅力があり、
まだまだ発展し、今後もビジネスチャンスがあると感じました。

谷本 優

平湖訪中団に参加して

弁護士法人法円坂法律事務所

弁護士 中 島 宏 治

日中経済交流研究会の視察旅行には、3年連続の参加となりました。今回は初めて行く平湖ということで、とても楽しみでした。

当事務所は、名古屋や東京の事務所と共同で2000年に大連事務所を開設しています。僕自身も2007年から2014年にかけて大連事務所の首席代表となり、毎月1回、大連を訪れていました。そのため、中国各地を訪問するたびに、大連と比較しています。

大連は、中国が改革開放政策を打ち出した初期の頃から、経済技術開発区として重点的に開発された地域です。そのため、外資受け入れが進み、発展していった都市でした。電化製品や金属製品の輸出加工を中心とした製造拠点となっていました。近年は人件費や原材料・輸送コストの上昇と共に、日系企業の撤退が増えています。

これに対して、平湖は、2000年と比較的新しい時期に開発された経済開発区です。大きな市場である上海に隣接し、国内販売を意識して進出した企業ばかりで、大連と異なり撤退の話はほとんど聞かないとのことでした。途中離団して上海に行っていたため、すべての訪問企業には行けませんでした。訪問できた企業の話では、確かにどちらも内販を明確に意識しており、上海に近い優位性を訴えておられました。撤退の話はほとんど聞かれませんでした。このことを実感できただけでも、今回の訪中団に参加した意義がありました。

僕は離団して上海・浦東の上海タワーにある法律事務所を訪問したため、1人高速鉄道に乗って上海まで移動しました。ホテルからタクシーで高速鉄道の最寄り駅（嘉善南駅）まで20分、それから高速鉄道で上海虹橋駅までわずか25分（片道29.5元という安さ！）、そこから地下鉄で浦東まで45分という移動でした。上海との近さを実感することができました。

また、今回特に感じたのは、「微信支付（WeChatPayment）」の普及のスピードでした。どこに行っても、スマホで決済している中国の方の姿を見ましたし、僕の中国の携帯電話のチャージもお願いして代わりに支払ってもらいました。同友会新大阪支部の11月支部例会で、早速、最近のビジネスネタとして報告した次第です。

最後に、エフエスカンパニーの谷本さんと現地法人の社員さんに非常に感謝しています。上記の高速鉄道とタクシーの手配も社員さんにしていただきました。優秀な信頼できる社員がいて、現地で頑張っておられる様子が伝わってきました。会社訪問ができなかったことが心残りですので、次回上海に行った際に、必ず平湖の会社を訪問しようと思っています。

また来年も参加したいと思います。今回世話役の1人となり（会計）、世話役の苦勞の一端を感じることができました。来年以降は、もう少し主体的に取り組もうと思います。

以 上

2017 年度訪中団を振り返って

カワモト・マニュファクチャリング株式会社

代表取締役 中野 幹生

はじめに

今年度の訪中団に参加した一番の目的は、中国における「キャッシュレス社会」の実情を確認し、これからの社会を展望することにあります。

当初の目的は充分にかなえられましたが、その反面、中国社会の隅々に広がる先進的な取り組みと日本社会との著しいギャップの存在に、強い焦燥を味わう結果となりました。その観点を以下の 5 つにまとめます。

1. 住環境の変化
2. インフラ整備
3. 不動産投資
4. キャッシュレス社会
5. 就労意識の変化

その1. 住環境の変化

ゴミだらけの街並み、食べカスだらけの飲食店、汚物まみれの公衆トイレ、公共の場で唾を吐き散らすマナーの悪さ... 中国の住環境を取り巻くイメージは、良いと言える点は「皆無」であったように思います。

その「あたりまえ」が、急速に変化していること。そのスピードは、当初の予想をはるかに上回るものでした。

画像は杭州の西湖湖畔に広がる公園。完璧に整備された公共スペース、何不自由なく育ったであろう屈託のない児童の姿が、この国の未来を象徴しているように思えます。



その2. インフラ整備

住環境の変化を後押しするものに公共インフラの整備と充実があります。中国ではリーマンショック後の景気低迷を受けて、日本円で 90 兆円を国内インフラ整備にあてると発表し実行してきました。

その結果、全土に高速鉄道と高速道路ネットワーク、インターネット回線が張り巡らされ、事業活動と消費活動を後押ししています。

画像は杭州近郊のサービスエリア。ピカピカのフロアに美しい店舗が並ぶ光景からは、つい先日まで、菱の実や現地特産の農産物しか置いてなかったことを想像することはできません。



その3. 不動産投資

一時冷え込んでいた不動産投機熱が、またも再燃にしている気配があります。

杭州郊外には超高層マンションが林立し、いまま増え続けていました。立地にもよりますが、100 平米あたりの価格は 7000 万円から 1.2 億円にもなるとか。ローン金利は 6% 台。中国のサラリーマンにはとても返せる金額には思えません。

そのマンションが売れ続けている理由は、マンションと自動車を持たないと結婚できないという社会的事情があるからです。しかし、何よりもサラリーが年々増え続けて

いること。これが高額消費を活性化させているのは間違いありません。



その4. キャッシュレス社会

中国で高額のスマートフォンが普及することにも懐疑的だったのが数年前、いまや全土にユーザーが広がっています。

子供から老人までがスマートフォンで買い物をするため、大型のショッピングモールは閑古鳥が鳴いている状態。いまや 8 億人がモバイル決済を行っており、その額も 2016 年度時点で 600 兆円。Wi Chat Pay と Alipay が双璧です。



画像はファストフード店でスマートフォンをかざして支払いを済ませる若いカップル。中国の若者たちが男女ふたりで歩く姿も最近になって目立つようになりました。

その5. 労働環境の変化

外資系企業の工場では、従業員満足度の向上に積極的に取り組んでいました。

プレス工場の片隅に設けられた休憩室は、さながらカフェのような装いです。この工場では従業員の誕生日にお祝いをしたり、社員旅行に出かけたり、さまざまな取り組みを行っていました。

既存の価値観や常識を超えて変革を生み出していく知恵とエネルギー。それがこの国の成長を支えているように感じます。



最後に

今回の訪中団もまた、学びに満ちたものとなりました。すぐそこにある国が急速に変貌していく姿を見て、われわれは今なにをするのか？その問いは年々切羽詰まったものになっていくようです。

「いまさら中国」という先入観が毎回見事に裏切られるスピード感...それを多くの人に体験してほしいと願っています。

最後になりましたが、現地でアテンドに奔走していただいた谷本さん、訪中委員会の皆さんに、同友会の仲間として心より感謝いたします。

今年も往復皆さまと別行動で日程を半分しかこなせず、失礼いたしました。

3日目のSSK様を途中で退席して帰路につきました。そこまでの印象を記させていただきます。

まずは平湖の街の印象は、上海や深圳などの大都会とくらべるとやはり地味な印象を受けました。

走っている車は高級車も多く、地方都市でもそれなりの所得水準で有る事がうかがえました。

比較的綺麗な建物が多かったとは思いますが、ここもやはり下水道（道の排水）が未整備なのか埃っぽい道路はやはり中国、ここまで生活水準が上がってきているのにこの環境は、このまま改善される事無く続くのだろうと感じました。

会社訪問初日のC・S・P様では詳しい説明を日本語でしていただき工場見学者に対して慣れてられる印象を受けました。

案内されたコイルの切り出し工場では、その広さに対して使用しているスペースの少ない事に驚きました。通常であれば、会社運営に支障をきたすほどの稼働の低さかとは思われましたが、それはそれで運営されている事に疑問を感じました。中国は中国なりの会計のロジックがあるのだろうか？

これに対して次に案内されたプレス工場のH・Y様では、余裕を持ちつつも沢山のプレスが並び活気にあふれた工場に感じられました。ただ、確か日本では基本的には使用してはいけないリンクプレス（非常停止を押しても急には停まらず危険度が高い）が何台も有る事や、反対側でワークを取り出す作業者の動きを確認しないでプレスのボタンを押す作業者がいたこと等、安全面に関しては疑問が残る印象を受けました。しかしながら日本式の管理運営が根付いているようで、随所に5Sや改善等の掲示がされており全員参加のイベントが存在するなど、無機質なイメージが強い中国企業ですが企業としての成長を社員と共に取組む姿が見受けられ、時として怠りがちな地味な取り組みをされており我を省みる見学でした。

午後は日本語を学ぶ学生さんらとの交流会。地方の学校であるにも関わらず多くの学生が日本語を学んでいる事に少々驚きました。日本語を勉強されて日系企業で職を探す事が大きな経済的メリットになっている時代は終わったであろうかとは思われるのに、日本の文化に触れたいが故に語学を学ぶ学生さんらに、生活と教養を切り離して考える中国の余裕を感じられました。アニメやドラマ等に興味を抱かれている方が多かったのですが、個人的には興味の対象では無いので「日本ってそれだけ？」と一抹の寂しさも感じられました。とは言え、日本人と話す事が初めてでしかも自分の親くらいの男性と物おじせず話してくれた彼女らの姿勢に感銘を受けたひと時でした。

訪問二日目のエフエスカンパニー様、初日の移動からガイド役を買っていただいた社員さんらの対応ぶりには本当に頭が下がる。仕事として参加されている感じを全く受けないのがスゴイところだと感じました。もちろん、日本人のアテンド慣れしている事もあるだろうけれど谷本さんとの信頼関係が上手く築かれている事が最も効いているのだと想像できました。我々と行動を共にしなかった会社のスタッフさんも良い笑顔で接していただき、働きやすい環境を提供しようとする会社とそれに応える社員さんの見事な連携のなせる業かと感じました。真似しようとしても一朝一夕にはいかないでしょう。

わが社に同じことができるだろうかと自問自答のエフエスカンパニー様でした。

次のS・S・K様で印象に残った事は、トップの方に何年こちらに居るか決まっているのかと問うと、「中国は、ビジネスのスピードが非常に速い！適宜判断していかないとおいて行かれる。だからあまりコロコロ駐在が入れ替わると慣れる頃にはついて行けなくなる気がする。」そんなニュアンスの事を言われていました。日本ではなかなかそんな事は感じないのですが、ますます発展していく中国にいうからこそその感覚なのだろうと、少し怖さを感じました。

以上

訪中団に参加して

Pink Rose ピンクローズ

広瀬みゆき

初めての中國大陸に期待で胸を膨らませて参加しました。

多少の不安もありましたが、そんな心配もすぐに吹き飛び、みなさんに大変親切にして頂き楽しい時間となりました。心より感謝しております。

中国ではたくさんの貴重な経験をすることが出来ました。その全てが消えることの無い私の大切な宝物になりました。

視察初日は、J E F スチールから技術指導を受けている C S P 様を訪問しました。

主にアルミ加工をされて伸びてきた会社です。20 クロム 5 アルミの金属加工は触媒機能に有効で、以前は二輪車の部品に使われるのが多かったが、国民所得の増加に伴い今は自動車部品にシフトしていて、今後は環境問題に急速に取り組むがゆえに中国では厳しい排ガス規制が予想され、ビジネスチャンスの拡大を期待すると言われていました。

その後、嘉興学院に訪問し、日本語を専攻している大学生と交流しました。100 年の歴史がある学校で、学生のみなさんは大変礼儀正しく笑顔が素晴らしく目の輝きが素敵でした。

先生は全員、修士以上の学歴を持ち、日本の留学経験があるとのこと。

学生達にどうして日本語を勉強しようと思いましたか？と聞くと、やはりきっかけは日本のアニメだったようです。私に一生懸命スマートホンでアニメの動画を見せてくれる姿は大変可愛らしかったです。私は日本の大学で学生に英語を教えているので、日本の学生と比較して大きな違いを感じました。それは目の輝きと表情の豊かさと貪欲な好奇心でした。なぜか少し悲しくなりました。

2 日目は、エスエフカンパニー様を訪問。今回お世話になった谷本さんの会社です。現地スタッフの方々に温かく迎えられました。谷本さんとスタッフの方々の信頼関係が出来ていて深い絆を感じました。苦勞しながら一緒にやってこられた時があるからこそ、今のみなさんの笑顔があるのだなあと、とても温かい豊かな気持ちになりました。

その後は、カンタツ様を訪問。携帯用カメラレンズを製造されている会社です。カメラレンズは平湖工場生産、営業拠点は上海にあり中国国内で販売されているとのこと。

今後はデュアルカメラが主流になり、生産量が増える見通しとのことでした。今後の携帯のカメラレンズは 2 つ装備が主流になり、1 つはモノクロ用として光を 3 倍取り込んで明るくしたうえで、もう 1 つのレンズはカラー用として色付けをするといった仕組みだそうです。工場内は大量生産が可能な体制になっており、高額な機械がたくさん導入されていたのが印象的でした。

その後、食品加工のSSK様を訪問。静岡県清水市の鈴予グループの一つで、物流から始まった会社で、昭和恐慌の時に社員の雇用を守るため清水のマグロを使ってツナ缶を作る新規事業を始めたところ、ツナ缶の油を利用してマヨネーズを生産したことから調味料などの食品加工事業を始めたそうです。中国には5年前にピジョンフードが進出する際にベビーフードを生産するということで一緒に進出されたとのことでした。

マーケットは中国内向けで、ベビーフードや調味料以外にも開拓中。最近では日本のカレーチェーン店が中国進出する際に、中国人向けのカレーの開発と一緒に取り組まれたそうです。カレーの試食もさせて頂きました。感想は日本のカレーの方がおいしかったです。工場内は比較的のんびりした雰囲気の中、手作業でラベル貼りや梱包をされていたのが印象的でした。

3日目は、日本電産シンパ様を訪問。減速機を生産されている工場を見学させていただきました。3Q6Sが徹底されていて、整理整頓と社員のしつけが行き届いていたのにはびっくりしました。私達が通るたびに、「こんにちは」と日本語で挨拶をされる姿には感動しました。「良い人が良い製品を作る」という理念が浸透していて教育の重要性を実感しました。外注を減らす方向で内製化を推進されていて、装置稼働率85%を目標とされ、食い止めることが難しい高い離職率の中、1年間で半分の社員が入れ替わるといった厳しい状況であっても、さらなる生産力を上げていくと言われていた総経理の言葉には力強いものを感じました。

幹部候補生を研修で月一回のペースで日本の本社へ送り、確実に未来への展望をしっかりと見据えた人材育成が出来ている仕組みは、さすが大企業であると感じました。

今回の訪中団ではたくさんの事を自分の目で見る事が出来て、また自分の耳で聞いてくることが出来ました。

今、私は仕事柄、簡単な通訳や翻訳を依頼されることがあります。たくさんの経験や知識を自分自身に積み重ねて研鑽することで、瞬時にお客様の要望に応えることが出来ると思っています。

その1つ1つの経験や知識を、今後いろいろな場面で伝えたり、自分の引き出しとして使っていけるように頑張っていきます。

そして、中国の大学生と実際に会話するという貴重な経験をしてきました。

私が日本で教えている大学生と中国の大学生の目の輝きの違いをしっかりと肌で感じて帰ってきました。

今後、自分に何が出来るかを考えて、出来ることを精一杯取り組んでいこうと思っています。

初めての中国、初めての訪中団

(2017 年 11 月 8 日～12 日)

福島総合特許事務所

弁理士 福島芳隆

初めての中国、初めての訪中団、しかも、約 12 年ぶりの海外。そして弁理士独立後、初めて仕事をやらない 5 日間。行く前は、お客さんに迷惑をかけないか、また、中国という国に対応できるか、不安なことばかりだったのですが、大山さんが、事前に私の事務所にもわざわざ訪問してくださり、ご説明いただいたので、その不安は和らぎました。

独立して 1 年半が過ぎたものの、日に日に増える業務にいっぱいいっぱい、明らかに訪中に対する準備不足でした。出発当日まで 3 時間睡眠が続きましたが、無理してでも、「中国へ行ってみよう」という思いが強かったのは、中国の特許出願は世界一の数であり、133 万件/年。日本はその 1/4 である、たった 32 万件/年。論文数も中国は世界一の数が何年も続いており、その質もこの 10 年でかなり上がったと聞いており、圧倒的な技術開発力を身に着けていることを実際に目にして、感じ取りたかったためです。

中国に到着し、すぐに思ったことは、もっと中国語を覚えてから行けば良かった。もっと、平湖、杭州について事前に調べておけばよかった。しかし、それは、後悔というよりは、中国という国がとても興味深く、勢いを感じ、これからも更に発展する国であることを直感しているから、もっと勉強したいと感じたことによるものでした。

平湖は、浙江省北部にあつて、経済発展著しい上海、杭州、蘇州の中間距離にあり、経営者としては、とても魅力のある場所であることが分かりました。平湖は、事前に田舎であると伺っており、確かに、杭州に比べれば田舎なのかもしれませんが、企業、工場も沢山あり、10 年後に訪れたら、全く違う街並みになっているのだろうと想像します。

平湖では、居相さん、谷本さんのおかげもあり、日系企業など多くの企業、工場を訪問させていただき、特に 5S、6S 等の品質管理は、日本と変わらないかそれ以上の企業が多いことを知りました。そして、日本と変わらない技術力を誇っているのを感じました。また、大学では、学生さん 4 名（李さん、徐さん、黄君、銭君）と交流する機会もあり、日本の大学生と変わらないところも多く、中国の学生さんの日本に対する思いを感じ取ることができました。とても貴重な経験でした。

最終日、杭州で観光させていただきましたが、街中から臭豆腐の香り。日本とは違うという文化の違いを久しぶりに感じました。ここにはもう書ききれない経験ができました。

最後に、居相さん、大山さん、谷本さん、豊田さん、中島さんをはじめ幹事役の皆様には本当に感謝いたします。その仕事ぶりには感心するところばかりでした。そして、今回の訪中でお会いできました皆様全員にも感謝申し上げます。このご縁は大切にしたいと考えております。まだまだ、起業まもなく余裕ない経営者ですが、これからも中国や経営を勉強していきたいので、引き続き、よろしくお願い申し上げます。

訪中団感想

細田工業(株) 細田新介

中国は約1年ぶりの訪問でワクワクしながら出発しました。

空港を出て空の色がグレーだなどかどどん田舎の方へ走っていくなと思っているとホテルに到着しました。煌びやかで立派なホテルに圧巻されました。

夕食の中華料理では白酒をたらふく飲まされ、いや頂きました。

二日目のプレス工場見学では溶接技術の高さが印象的でした。

昼からの日本語学校見学の印象としては二年生と三年生で明らかに語学レベルの差を感じた。

個人のレベル差？この1年間で何か劇的に変わる要素があるのか？

学生の皆さんは素直で日本人に比べてスレていない感じがしました。

それでは待ちに待った街の散策！

ショッピングセンターをブラブラしながらスーパーに行きました。

食品加工機械製造という仕事柄、野菜や麺を見ようと思っていたのですが魚売りに釘付けになりました。私が琵琶湖で遊んでもらっているブラックバスが水槽に！隣には雷魚がいます。

日本では釣り人の遊び相手だが中国では食用なのか？雷魚なんかよく食べるなあと文化の違いを感じました。たくさんの魚が並んでいる中で見慣れているのは太刀魚くらいでした。

野菜や麺のことはすっかり忘れてスタバでコーヒーを飲みバスへ戻ったことは反省。

三日目はエフエスカンパニー様を訪問。社員が定着しにくいと言われている中国で彼女達が長く務められておられるのは何か秘訣があり魅力で溢れているのかなと思いました。

そういえば社内の雰囲気は直感的に良かったなあと感じました。

食品工場で感じたことは日本の食品工場でも悩んでいることはあまり変わらないということ。

夜は日本食。やっぱり日本食ええなあと実感。妹も喜んでいました。

三日目のこのタイミングで日本食をチョイスして下さいまして感謝しています。

四日目の減速機メーカーでは親しみやすい総経理、気持ちいい挨拶が行き届いたおもてなし、ピカピカな設備と見習うべき点を学ばせて頂きました。

お昼は焼肉でした。本当に美味しい。昼からビールという至福の時。

そこからバスを走らせ都会の方へ。平湖を見た後なのか相当な都会に感じました。

そしてホテルで小さなトラブルが発生！部屋の冷蔵庫が開かない。(平湖のホテルでも)

なんとか冷蔵庫を中国語に訳して開けてもらえましたが開けてみてビックリ！

前の宿泊者の物なのかビールやお菓子、女性物の下着が冷やされていました。

下着に関しては意味がわからない。ちなみに妹の部屋は洗面台の排水が出来なかったようで。良いホテルでもええ加減なところがあるのはお国柄なのかなと実感しました。

夜は中華料理でカエルがテーブルに。勇気を出して少し食べてみると意外と美味でした。

夜市は出荷時にハネられた正規品も混じっているとのことで賢く買えば良い思いが出来そうに感じた。

最終日の西湖観光では綺麗な景色と美味しい空気でリフレッシュできました。

特にお昼にB班メンバーで入った中華料理店がとても美味しかったです。

濃かった旅もいよいよ帰路に。過ぎてしまえばあっという間の5日間でした、

旅行では行かないところへ行き、中国で釣り道具を買いにいくとは思っていませんでしたし、夕食や部屋飲みで経営者の方々の色々な話を聞いたこと、物価の違い、思っていたよりも感じなかった反日感情、文化の違いなど普段出来ない経験をさせて頂きました。ありがとうございました。

訪中団活動への参加

細田工業㈱ 細田麗

今回、初めて訪中団の活動に参加させて頂きました。参加の理由としまして、第一に海外の企業訪問ができるということは中々無い有難い機会だと思いました。また、弊社は昨年上海に子会社を設立したものの自身は中国を訪れたことがなく、一度足を運んでみたいと思っていたことや、自分が偶々中国語の勉強を始めたところだったため、現地でその国の言葉に触れてみたかったこともあり、すぐに参加を決めました。

弊社は食品加工機器を取り扱っており、今回訪問先に食品会社あるということで、楽しみにしておりました。工場内を見学させて頂きましたが中は大変綺麗で、面積も広く、自分の思っていた・知っていた食品会社のイメージは機械や原料が所狭しと置かれているイメージがあったので、少し意外な印象でした。今回はドレッシングやレトルトパウチ等を取り扱っている会社ということで充填機やコンベヤ、殺菌装置等の機器そのものやライン構成、それに伴った従業員の配置等を見ることができ、とても興味深かったです。また機会がありましたら、もっと多くの、実際の中国の食品会社の現場を自分の目で見てみたいと思いました。

また、日本電産シンボ様の現場環境や社員への教育体系も印象的でした。工場をぐるりと見学させて頂きましたが、面積・社員とも非常に広く・多いのですが、その整頓・整備された状態に驚かされました。小まめな掃除を心掛けて取り組まれているようで、美しい職場や整頓された作業道具は使うもののモチベーションを上げることに繋がることから、非常に良い方針だなと思いました。多くの加工機器があり、人員も伴って多いのですが、どこを見ても綺麗で感心しました。さらに中国人社員の方は全員日本語を話すことができるということや、どの社員の方々も、見学する我々に「こんにちは」と日本語で挨拶を下さったりと、整頓も含め社員さんへの教育にも大変感心しました。私は会社では経営者サイドではなく作業員として勤務しているので、こんな風に整備されていたら作業がしやすくいいなあ、とか来客時もこんな風に挨拶されたら気持ち良いものだなあと、改めて感じました。

また、大学で日本語を勉強している学生たちとの交流も大変面白かったです。私は 2 年生の方々と話した後に 3 年生の方々ともお話をしましたが、前者は少したどたどしい印象だったのですが、後者はとても流暢で、殆ど日本人と話しているように会話できました。1 年でこうもレベルアップするのかと、習得度に感心しました。中国の学生の雰囲気を感じられたことや、学校の内部の風景も見られて新鮮でしたし、こういった交流も今回取り入れて下さってとても良かったなと思います。

長いようでしたが、内容が濃くあっという間の 4 泊 5 日でした。ジャンル問わず色々な企業に触れさせて頂き本当に面白かったですし良い経験となりました。平湖と杭州という二か所の土地に滞在できたことも良かったと思います。訪問させて頂いた企業様方、今回の旅をサポートして頂いた皆様、本当にありがとうございました。

日中経済交流研究会報告書

税理士法人ガルベラ・パートナーズ 山本泰志

私自身、中国に足を踏み入れるのは初めての経験であり、現地での状況を自らの目で見て学ぶとともに、今の自分に足りていないものを見つけ出して意識を変えていくことを目的として参加しました。

当初は経済面や安全面等で本当に大丈夫なのかという、マイナス思考を持ったまま今回の訪中団ツアーをスタートしましたが、訪問した杭州の治安は良く常識的な意識付けとモラルさえ持っていれば何ら問題がなく、杞憂に終わる結果となりました。

外を歩いていると電動スクーターで移動している方が非常に多く、狭い通路であってももの凄いスピードで走り抜け、進行方向を遮る一般人に対しては容赦ない警笛を爆音で鳴らしながらドヤ顔で突っ切っていく光景が多くみられました。

訪中 2 日目以降は企業訪問をさせていただき、その中でも特に印象に残った企業が谷本様のエフエスカンパニー様でした。谷本様、そして従業員の皆様には本当に良くしていただき、その人柄の良さがにじみ出ており何度も助けていただきました。

何気ない気配りや常に全体を視野に入れながらユーモア溢れる言葉で親近感を持たせてくれたことに感謝するばかりです。

今回の訪中で学んだことは自分に対する視野の狭さであり、考え方の疎さでした。

私自身、中国現地での日本人に対するイメージは良くないため、不足の事態が起こる可能性があるため常に注意喚起しておかなければと、勝手に思い込んでおりました。

しかしながら、実際の現地では日本人を熱烈に歓迎してくださる方々が沢山おられ、その方々と交流を重ねていくうちに偏見を持っていたのは自分であったということに気付かされました。一部の情報だけを鵜呑みにして洗脳されていた自分が恥ずかしい限りです。

また、他の訪中メンバーの方々から貴重なお話を聞かせていただく機会が沢山あり、今後の人生に活かすべき知識を沢山学ばせていただきました。

現地の方々のモラルについても、10 年以上前と比較すると格段に良くなっているという話を聞くことができ、むしろ日本人の方が成長しないまま停滞し続けているのではないかという疑念も浮き彫りになり、強い危機感を覚えました。

これから 1 年後、今回の経験を踏まえて私自身の意識付けがどの様に変わっているのか、自問自答を繰り返しながら次回の訪中の機会を楽しみにしていきたいと考えております。